



# 日本聖公会 北関東教区時報

発行所 日本聖公会 北関東教区文書部  
〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町2-172 電話 048-642-2680

## 祝 イースター

### ヤコブの夢

「わたしはあなたと共にいる」

主教 ゼルバベル 広田 勝一

旧約聖書の創世記にヤコブという人物が登場します。イスラエル十二部族の祖とされる息子たちの親であるヤコブです。ヤコブはまだ若者であった時、兄エサウが受けるべき父イサクの祝福を奪い取ったことにより兄エサウの怒りを買ひ、母リベカの勧めに従って、その土地を離れ、叔父ラバンが住むハランに向け逃亡の旅に出ました。荒野を一人歩むヤコブは、自らの行為への後悔、行く先への不安と孤独の世界の中にいました。とある場所に来たとき、日が沈み、そこで一夜を過ごすことにしたヤコブは、そこにあった石を一つとって枕にして身を横たえます。その時ヤコブは夢を見ました。

「先端が天にまで達する階段が地に向かって伸びており、しかも、神の御使いたちが上ったり下ったりしている」と(創世記二八・十二)。階段と訳されている原語は、口語訳の聖書では「梯子」と訳され、教会生活の長い方は馴染みがあるかもしれませんが、語源的には、石や土を盛り重ねて造った傾斜路のイメージです。この階段が「地に向かって」伸びていたのです。



ヤコブが失意の底にあったまさにその時、天から地へ階段が下ろされ、主がヤコブの傍らに立って「見よ、わたしはあなたと共にいる。あなたがどこへ行ってもあなたを守り、必ずこの土地に連れ帰る」(同二八・十五)と祝福されたのです。ヤコブは眠りか

ら覚め、言います。「まことに主がこの場所におられたのに、私は知らなかった」。主が共にいて下さるとは思えない、そんな絶望の時、主が共にいて下さることをヤコブは主の言葉によって知ることができました。さらにここには天と地との結びつきが強調されています。

この創世記の箇所をテキストとした、聖歌五一九番「主よ、みもとに近づかん」は、葬送の式においてしばしば歌われます。歌いながら、私たちは逝去された方が、「み空に通う梯子」を神のみもとへと上り行く様子を思い浮かべます。この聖書の記述を読み返すし、神のもとへと至る、私たちが上りゆく階段、それは、神によって天から地へと下ろされ、神によって上ることを許された道であります。神自ら人間となりこの地に降ってこられ、私たちが救い出します。それは私たちのために、十字架を担い、死の苦しみに打ち勝たれたみ子イエス・キリストのご復活によって、私たちに与えられた神の約束であることを、ヤコブへの「わたしはあなたと共にいる」の言葉とともに覚えていたいと思えます。

私は今年、イザヤ書四六章四節の「わたしはあなたたちを造った。わたしが担い、背負い、救い出す」の聖句を大切にしています。私たちがどのような困難な時も、「彼らの苦難を常に御自分の苦難とし、御前に仕える御使いに」によって彼らを救い、愛と憐れみをもって彼らを贖い、昔から常に、彼らを負い、彼らを抱ってくださった」(イザヤ書六三・九) 神が、常に共にいて下さいます。そして、この世での生涯を終えた後も、神が備えられた階段を、神が私たちを背負い、共に天へと歩いて下さることへの信頼を確かなものにしていただきました。春の訪れとともに、イースターを迎えました。み子イエス・キリストのご復活を心からお喜び申し上げます。



## 神学院での学びを終えて

聖職候補生 マルコ 福田 弘 二



私は聖公会神学院で特別聴講生として二年間学んで参りました。この間、教区の皆様には、お祈りとご支援をいただき、心から感謝申し上げます。お陰様で、去る三月九日の卒業礼拝において、佐々木校長から修了証書が授与されました。

私は定年退職してから神学校に入学し、私よりずっと若い神学生と寮で共同生活をしました。朝・昼・夕と食事を共にし、食器洗いや廊下や風呂の掃除を分担したり、進んで配膳したり食卓を拭くなど、「仕える者」の姿勢を身につけるよう心がけました。

また、多くの授業を受講し、レポート提出や試験を受けたり研究発表をしたりしました。二年次は聖公会論・旧約聖書釈義・新約聖書釈義・教理学・牧会学・教会の礼拝・説教・アジャキリスト教史・ヘブライ語・教会音楽・カウンセリング・総合ゼミ等を履修しました。三年次の科目も取ったため科目数が増え、朝九時から夕方五時までずっと授業が続く曜日もあり、精神的にも体力的にもきつかった時もありました。しかし、これまで仕事を持ちながら神学塾等で学んできたことを思うと、他のことに気を取られることなく、集中して学びに没頭でき、神の心を知り、多くの気づきが与えられ、感謝の時でもありました。

また、多くの授業を受講し、レポート提出や試験を受けたり研究発表をしたりしました。二年次は聖公会論・旧約聖書釈義・新約聖書釈義・教理学・牧会学・教会の礼拝・説教・アジャキリスト教史・ヘブライ語・教会音楽・カウンセリング・総合ゼミ等を履修しました。三年次の科目も取ったため科目数が増え、朝九時から夕方五時までずっと授業が続く曜日もあり、精神的にも体力的にもきつかった時もありました。しかし、これまで仕事を持ちながら神学塾等で学んできたことを思うと、他のことに気を取られることなく、集中して学びに没頭でき、神の心を知り、多くの気づきが与えられ、感謝の時でもありました。

朝七時半の朝の礼拝に始まり、夕方五時の夕の礼拝、夜九時の就寝前の祈りまで参加することで、日々の生活が祈り、そして神との交わりの中にあることを実感しました。

二年次の教会実習は、前期は大宮聖愛教会、後期は浦和諸聖徒教会でお世話になりました。聖職・信徒、日曜学校の子どもたちに感謝します。

夏期実習は、静岡の「ラルシュカナの家」という知的障がいのあるなかとアシスタントが共に暮らすコミュニティで三週間行い、小さな者の賜物を知り「共に生きる共同体」の在り方等を学びました。

そのほか十二日間の韓国特別研修では、特に「分かち合いの家」等の社会宣教活動から多くの示唆を得ました。

この二年間は、私の人生において、神が私に特別にお与えくださったプレゼントのように感じています。み心ならば、ここでの学びや経験を教会での奉仕や宣教等に生かしていきたいと思えます。今後ともよろしくお願ひします。

## 北関東教区「信徒一致の日」合同礼拝

主題：「新たな一歩＝希望へのあゆみ」

説教：ピリポ越山健蔵司祭(東北教区)

2017年5月3日(水・休) 10:30～

場所：立教学院聖パウロ礼拝堂(立教新座キャンパスチャペル)

昨年、成立120周年を迎えた北関東教区が、新たな時へと進んでいく今年、祈りと交わりを中心とした合同礼拝のひと時を過ごします。礼拝の信施は、聖堂の改修、集会堂の建設に向けて歩みだす高崎聖オーガスチン教会のためにささげられます。どうぞ祈りをもっておささげください。

礼拝後には、教区婦人会バザー、パイプオルガンミニコンサートが催されます。

# 教区婦人会より

ヘレン 板橋 和子

## 「婦人会は 教会のお母さん役です」

タイトルは宣教師ネリー・マキム先生が常に話されていた言葉です。マキム先生は、ジョン・マキム主教とアン

ネ・マキム夫人の次女として大阪に生まれ、宣教師と幼児教育者の任務を果しながら、婦人会の在り方やその働きを身をもってお示しく下さいました。そのお考えやご生活の



一端を振り返り、教区婦人会役員をお引き受けした折にも一度婦人会の働きについて考え、その上で役目を全うし、皆様と共に次の世代に引き継いでいけたら幸いに存じます。

戦争中はフィリピンで捕虜扱いではありましたが日本語が上手なため、日本人捕虜の慰問などに努められ、戦後下館に戻られてからのこととなります。中学生の私に、将来のために婦人会に出席し学び、その働きを覚えなさいと命令が下りました。戦後の婦人会は現在のように大きな奉仕活動をする力はありませんでしたが、祈りと聖書の学びの例会が持たれていました。マキム先生は教区内の教会に出向きお話をされたり、下館と水戸や土浦、日立の婦人会がお互いに訪問しあい、合同の例会を開いて交わりを深めることを大事にされました。マキム先生が一番に心掛けていらっしやったことは、聖職を敬い、その家族をも大切に、色々な面で支えられた



ことです。聖職志願者がいれば喜んで学費やその家族にも経済的支援をされました。そのような支援は信徒や一般市民にまで及びました。このお気持ち現在の教区婦人会「牧会援助資金」に活かされているのです。そのため、ご自分の生活は清貧に甘んじたものでした。いつもピンクやクリーム色の美しい洋服をお召しなので間違えて受け止められたかもしませんが、それは幼児教育者由縁によるものです。子どもがきれいなねと感じる情操教育の一つといわれました。

折しも日本聖公会婦人会は創立一二五年を迎えます。その記念すべき時に齊藤道子会長以下埼玉伝道区の方々が日本聖公会婦人会役員を担ってくださいます。広田勝一主教様も私たち以上に婦人会を愛し、代わって歴史を掘り起こしてくださいます。このように他に誇れる幸いとお恵みをいただいているのが北関東教区婦人会なのです。この大きな恵みに感謝し、できる限り多くのメンバーの祈りと支えで神様から頂いたお母さん役を果たして参りましょう。

### 総会報告

北関東教区婦人会第六九回総会が二月二日大宮聖愛教会で開催されました。十時三十分より教区主教司式による聖餐式がささげられました。主教様よりお説教で「私たちの神は、私たちを担い、背負い、救い出してくださいさる神です。」

共にいてくださる神への信頼を基に、祈りと感謝を根幹にし務めを果していききたい」とのお勧めをいただきました。聖餐式の信施五〇五〇〇円は小名浜聖テモテ教会被災地支援センターに奉獻されました。役員会、教養部、文書部の報告、二〇一六年度決算、二〇一七年度予算についてすべて承認されました。特記すべきことは日聖婦感謝箱献金担当役員からパワーポイントを用いて感謝箱献金の歴史と二〇一六年度奉獻先の説明がありました。総会終了後、主教様司式の役員任命式に与りました。最後に次期役員をご紹介します。

- チャプレン 小野寺 達司 祭
- 会長 板橋 和子 (水戸)
- 副会長 鈴木 節子 (日立)
- 会計 草間 真理 (水戸)
- 後藤美智子 (下館)
- 書記 遅野井有美 (水戸)
- 宮本せつ子 (日立)

二〇一七年度聖句 北関東教区婦人会  
「小さな群よ、恐るるな。あなたがたの父は、喜んで神の国をくださる。」

ルカによる福音書 十二章三十二節

